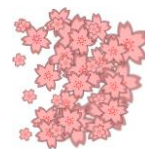




まなざし



NO. 2 令和3年5月6日

いどむ やりぬく 思いやる

いどむ211人の子どもたち

校長 山本 峰明

岐阜県非常事態の中、2年連続の自粛連休も終わり、新緑の鮮やかな5月を迎えました。



4月、生徒会が『星の国 ステージ1』（左写真）を企画し、仲間の輝いていた姿を次々とカードに記し、生徒玄関のボードには、仲間の輝いていた姿120件が付されています。光輝く『星の国に行こう』と、毎月のミッションを仲間と協力してクリアしていく生徒会の『いどむ』は、全校211人の『いどむ』を後押ししています。『辺境地』とされ、製作されたこのボードは、デザ

インもすぐれ、今年の生徒会の意気込みを感じます。毎日、昼の放送もあり、生徒会がリードする気持ちの良い4月のスタートでした。

そんな前向きな生徒会のおかげで、新1年生の多くが部活動に入部し、それぞれの『いどむ』を見せています。3年生にとっては、残り少ない部活動を『やりぬく』、2年生は『引き継ぐ』と立場は違いますが、中体連に向け、大事な5月となります。また、6月12日開催の可児・加茂の地区陸上に『いどむ』生徒は、自ら手を挙げ、短い時間ですが、自分磨きの5月です。さらに、体育の授業では、八中史上初めて、学級対抗ダンスフェスティバルに『いどむ』5月です。『いどむ』ことに、壁は付きものです。仲間とともに、壁を乗り越え、個人も成長できることを期待します。この力が、学級の授業力、個人の学習力を高めます。

コロナは変異株の情報により、緊張が高まっています。感染防止を継続し、できることは精一杯楽しみ、頑張る八中でありたい。ご家庭においても感染防止、また感染拡大とならない対応を切にお願いし、いどむ211人全員を応援願います。